

## 外国人生徒等に対する取り組み事例①

# 三重県立 飯野高等学校

全日制・学年制・集住地域  
外国人生徒等 100 人超  
学校設定教科・科目の充実  
教員組織「国際サポート」委員会  
県教委・県国際交流財団事業に  
よる放課後日本語講座



外国人集住地域の高等学校で、全校生徒の約 35%が外国人生徒等です。校内に「国際サポート」という外国人生徒等の専門部署を設け、生徒へサポートに加え、授業を担当する教員や外部機関の講師との連携も担っており、包括的な指導・支援体制が整っています。応用デザイン科と英語コミュニケーション科の2学科があり、それぞれ「ビジュアルデザイン」「服飾デザイン」「美術」の専門性を高めること、英語を自由に使えることを目標に学習しています。

学校名	三重県立飯野高等学校	所在地	三重県鈴鹿市
課程・制度・学科	全日制・学年制・応用デザイン科／英語コミュニケーション科		
特別入学枠	有	措置	－
全校生徒数（人）	457	外国籍生徒数（人）	142
特別枠入学者数（人）	9	日本語指導が必要な生徒数（人）	62

2008 年に外国人生徒等教育のため加配教員が配置されました。現在は全校生徒の 35%が外国人生徒等で、英語コミュニケーション科は、その約 65%を占めています。ブラジル籍の生徒が一番多く、次いでフィリピン籍、ペルー籍の生徒が多く在籍しています。文化や言語の多様性を重視し、外国人生徒等を CLD 生徒（Culturally Linguistically Diverse「文化的言語的に多様な背景を持つ生徒」）と呼んでいます。

## 生徒の実態・とりまく状況

来日直後の外国人生徒から日本で育った生徒まで、滞日期間は様々で、日本語の能力の差も小さくありません。教科学習に参加するには日本語の力が不十分である生徒や、高校までの教科の学び直しが必要な生徒が増加する傾向にあります。経済的に困難がある生徒が多く在籍しており、家族のため、自分の進学資金のためにアルバイトをしています。

## 受け入れ体制

**校内組織：**専門部署として「国際サポート」を置いて教員を配置し、外国人生徒等に関わる調査、保護者の使用言語の調査、通訳の手配、授業支援、日本語能力試験受験の推進、奨学金受給のための支援等を行っています。「国際サポート」委員会では、授業担当者との意見交換や取り出し授業対象者の決定をします。

**指導体制：**日本語の力とそこから想定される教科学習の困難に基づき、外国人生徒等を 2 タイプに分け

て指導を行っています。それを講座（S 講座と T 講座）と呼んでいます。

S 講座…日本語力に不安がない生徒を対象とし、教科を在籍学級で学びます。

T 講座…教科学習への参加には日本語にまだ課題がある生徒を対象とし、現代文・現代社会・生物基礎・保健の4科目では、取り出しの授業を実施します。

## 学習指導・支援の工夫と特徴

### 日本語指導

「日本語」に関する学校設定科目で学習しています。1年生対象に週2時間、2年生に週3時間、3年生に週4時間、開設しています。指導者は、三重県の日本語指導アドバイザー1名、ポルトガル語とスペイン語の外国人生徒専門員2名、日本語補助員2名の計5名です。

日本語の力の把握については、新入生に関しては、3月の合格者登校日に小テスト（10分）を実施し、クラス編成のための資料にしています。英語コミュニケーション科の生徒には、4月に日本語基礎力テスト（50分）を実施して、S・T講座の編成資料としています。日本語基礎力テストは聞き取り問題、知識（文字・語彙・文法）、運用・読解からなり、日本語能力試験ではN3レベルに該当します。

放課後に「日本語学習クラブ」の活動を実施しています。⇒「学外との連携」で詳しく紹介

### 教科学習支援

在籍学級で、日本語で教科を学ぶことに不安がある生徒には、現代文・現代社会・生物基礎・保健の4科目で取り出し授業（T講座）があり、ポルトガル語とスペイン語の外国人生徒専門員、日本語補助員がサポートに入っています。T講座でもS講座（在籍学級で学習）と同じ教科書で指導をし、同じテスト問題を受けています。

## キャリア支援

学校全体の進路は、大学進学、短大・専門学校進学率がそれぞれ30%強で、就職が30%弱となっています。外国人生徒等には卒業後に母国に帰国する生徒も少なくありません。また、卒業後も日本に住んでいても、正社員ではなくアルバイトを敢えて選択肢する生徒や、一度就職してお金を貯めてから大学進学を目指す生徒もいます。

キャリア教育が重要だと考え、総合的な探究の時間などを使ってキャリアへの認識を深める活動をしています。また、三重県教育委員会の協力を得ながら、外部団体による講演会を開いています。ただ、これだけでは、外国人生徒等の就業意識を高めることは難しいと感じています。

## 特色ある取り組み「生徒・サポートの呼び名」

外国人生徒等を CLD 生徒 (Culturally Linguistically Diverse「文化的言語的に多様な背景を持つ生徒」) と呼んだり、専門部署を「国際サポート」と名付けたりして、外国人という言葉を意識して使わないようにしています。外国人という言葉を使うことにより、外国人と日本人の間に線引きされてしまいますが、そのような二分化されたイメージを払拭したいと考えています。そして、外国人だから支援するという固定的な観念から脱却するためにこうした言い方をしています。

## 学外との連携

**三重県教育委員会**：2021 年度より日本語指導アドバイザーが 1 名配置され、週 4 回来校しています。

**国際交流財団**：令和 4 年度より「日本語学習クラブ」(飯ネイティ部) という日本語講座を開講しています。これは放課後の日本語指導 (50 分) のことで、T 講座の 1 年生約 23 名が受講しています。年間 30 回開講する予定です。三重県教育委員会が公益財団法人三重県国際交流財団 (MIEF) に委託している事業で、MIEF から派遣される日本語指導の専門家が指導を担当しています。受講は登録制で、他校の生徒も登録をすればオンラインで動画などを見て学習することができます。主な使用教材は、MIEF が作成した「日本語学習で未来を描く～高校生版みえこさんの日本語ワークシート～」です。楽しく学び、日本語の力を向上させる好機となっています。

## 今後の取り組み

次の点について取り組んでいく予定です。

- ・日本語指導・教科学習指導の確立に努めたいと思います。
- ・T 講座における生徒支援専門員や日本語指導等補助員などの授業配置の条件や増員について検討をしていきます。
- ・他校と連携を強化し、情報共有を積極的に行い、ネットワークを構築していきたいと考えています。
- ・日本語の学習が、外国人生徒等に学ぶことや働くこと、自分の人生を考えることの大切さなどを学ぶ機会になるように努めたいと思います。

ヒアリング実施日：2021 年 10 月 8 日